

<科学的視点からの健康づくり②（中山健夫委員説明資料）>

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻

研究内容・教育コース並びにカリキュラム

1 社会健康医学系専攻の概要

(1) 社会健康医学系専攻の使命

医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

教育	社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。
研究	人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。
成果の還元	その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。
専門的貢献	専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

(2) 同専攻の特徴

- 日本初の本格的SPH (School of Public Health) 大学院
(平成12年設置、平成15年に専門職大学院(公衆衛生大学院)に移行)

1. 共通理念：医学と社会をつなぐ
2. 教育の重視
<ul style="list-style-type: none"> ・コア・カリキュラムと豊富で多様な選択科目 ・特別コースの設置 (MCR、遺伝カウンセリング、知的財産) など
3. アウトカム
<ul style="list-style-type: none"> ・高い研究実績、卒業生のキャリアパス
4. 高い国際性
<ul style="list-style-type: none"> 世界医学サミット、SGU、UNAIDS、ACP他
5. 病院、他部局との密な連携
6. 社会的責任の自覚と行動：人材育成、政策提言

2 主な研究内容

現在5講座、17分野・コースが設置され、多方面にわたる研究を行っている。

※以下青字の項目は、“Public Health”の世界標準である5領域（疫学、医療統計学、環境科学、保健医療管理学、社会及び行動科学）への対応を示す。

(1) 健康解析学講座

分野・コース	内容（研究・教育）
医療統計学 [II]	臨床研究、疫学研究の計画、実施、解析、報告にかかわる統計的問題についての教育・研究
医療疫学 [I]	医療のプロセスや健康アウトカムの測定とこれに関連する種々の要因の解明、さらにプロセスやアウトカムを改善するための介入・実践方法の開発と評価
薬剤疫学・臨床研究管理学 [IV]	多様な医療系データベースを用いた臨床研究、薬剤疫学研究、費用対効果研究。並びに、先端医療や医薬品開発と評価の全貌を理解した臨床研究の支援管理人材の総合的育成
ゲノム情報疫学	ヒトゲノムの変異と生活習慣病の遺伝的相関を、分子生物学的手法により研究
臨床研究者養成 (MCR コース)	診療に直結した臨床研究を計画・実施する研究者の育成 (MCR コース教育課程)

(2) 健康管理学講座

分野・コース	内容（研究・教育）
医療経済学 [IV]	医療の質と経済をめぐる社会的・学術的課題の解決に向けた研究・開発・教育。医療という現実の経済性・質・安全について、政策、経営、評価・改善の実施への関与
医療倫理学・遺伝医療学 [V] (遺伝カウンセラーコース)	倫理審査や遺伝治療に関する問題についての総合的な教育研究
健康情報学	健康・医療に関する問題解決を支援する情報のあり方を追求し、情報を「つくる・つたえる・つかう」の視点で捉え、より望ましい環境の整備を推進する研究
医療コミュニケーション学 [V]	医学情報がどのように社会、医学／研究コミュニティ、メディア、政策者間を循環し、そのコミュニケーションはどのようなチャンネルを通して行われているかを教育・研究
知的財産経営学	人類社会に貢献する先端医学領域において、知的財産の創造から活用までを総合的に管理・経営する能力を備えた高度専門職を養成するための教育・研究

(3) 健康要因学講座

分野・コース	内容（研究・教育）
環境衛生学 [Ⅲ]	環境要因と遺伝要因によるヒトへの健康影響の研究
健康増進・行動学 [Ⅴ]	認知行動療法と臨床疫学の双方から、疾病及び健康に関連する行動と認知を変容する実践的かつ実証的な研究
予防医療学（健康科学センター）	エビデンスに基づいて一次・二次予防を行い、日々の健康管理業務や診療の中で疫学を用いた臨床研究を実施

(4) 国際保健学講座

分野・コース	内容（研究・教育）
社会疫学 [Ⅲ]	人類の健康に影響する諸要因の理解とその改善への寄与を目的に、医科学と社会科学、量的方法と質的方法の統合による社会疫学的方法に基づく、感染症、非感染症の実践的研究と教育
健康政策・国際保健学	我が国及び諸外国における保健・医療の制度と活動や国際保健医療協力に関し、歴史的展開や行政的意義を踏まえ、その開発と評価について健康政策的観点から教育・研究

(5) 社会生態学講座

分野・コース	内容（研究・教育）
環境生態学	ヒトの感染症の発生・伝播と種々の環境要因について教育・研究
人間生態学	ヒトの疾病とりわけ生活習慣病と老化のありさまが、自然環境や文化背景とどのように関連を有するか、地球規模でのフィールド医学的調査に基づいて研究

3 社会健康医学系専攻の教育コース・カリキュラム

(1) 課程の構成

現在以下の3つの課程がある。

①専門職学位課程

目的	将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を身につける		
取得学位	社会健康医学修士（専門職）MPH		
	課程・コース	対象と学習内容・目的	年限
基幹課程	2年制MPH	臨床研究を含むPublic Health一般	2年
特別コース	1年制MPH	公衆衛生の実務経験を有する者を対象とする Public Health一般について、短期間で高度専門職者を育成	1年
	臨床研究者養成(MCR)	臨床経験を有する医師・歯科医師を対象とする 臨床研究の分野で活躍する研究者を育成	1年
	遺伝カウンセラー	ゲノム・遺伝情報利用医療と患者・家族のインターフェースとなる人材の育成	2年

※各コースとも社会人大学院生可

②博士後期課程

目的	○「社会における人間」の健康や疾病に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究 ○将来、国内外の保健・医療・福祉分野における高度な教育・研究に携わることが期待される
年限	3年（社会人大学院生可）
取得学位	博士 Dr. PH（社会健康医学）

※医師、歯科医師、獣医師、6年制薬剤師は修士課程を経ずに直接受験可能

③医学博士課程

形態	一般的な医学博士課程において社会健康医学分野を専攻する
年限	4年（社会人大学院生不可）
取得学位	博士（医学） PhD

(2) カリキュラムの構成

コアとなる5領域を定め、どの課程・コースにおいても、これらの領域を構成する科目が必修（選択必修含む）となっている。

領域	科目名	備考
領域1 [I]	疫学Ⅰ（疫学入門）	必修
	疫学Ⅱ（研究デザイン）	必修
領域2 [II]	医療統計学	必修
領域3 [III]	感染症疫学	選択必修
	環境衛生学	
領域4 [IV]	医療政策・マネジメントⅠ	選択必修
	健康政策・行政管理学	
	医薬政策・行政	
	医療評価・経済評価	
領域5 [V]	行動科学	選択必修
	基礎医療倫理学	
	医学コミュニケーション・基礎	

※医療系出身でない学生はさらに以下が必修となる

医学基礎Ⅰ、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論、課題研究

- 上記に加え、各課程・コースに必要な科目等が必修になる場合がある。
- その他、選択科目からの単位取得も求められる。

4 卒業生の人数・進路

(1) 卒業生累積数 (2015年1月調査 (2014年3月卒まで))

コース	人数 (人)
社会健康医学系専攻 専門職学位課程 (M. P. H.) (MCR・遺伝・知財の91人含む)	312
社会健康医学系専攻 博士後期課程 (Dr. P. H.) [3年制]	88
医学専攻 博士課程 (Ph. D.) [4年制]	50
合 計	450

(2) 卒業生の進路

(MPH内部進学者を除く、2015年1月調査 (2014年3月卒まで))

	M. P. H. *	Dr. P. H.	Ph. D	合計**
アカデミック	49 (16%)	52 (59%)	22 (44%)	123 (33%)
医療機関	64 (21%)	16 (18%)	9 (18%)	89 (24%)
企業(製薬等)	65 (21%)	9 (10%)	3 (6%)	77 (21%)
官公庁等	11 (4%)	6 (7%)	2 (4%)	19 (5%)
その他 追跡中を含む	123 (39%)*	5 (6%)	14 (28%)	65 (17%)
合 計	312 (100%)**	88 (100%)	50 (100%)	373 (100%)

* うち77名は現在博士後期課程・博士課程在学中

** 内部進学者重複を除いた合計 (在學生を除く)

(3) アカデミック就職状況

	分類	M. P. H.	Dr. P. H.	Ph. D.	合計***
大学	教授*	6	8	4	19
	准教授	6	11	2	19
	講師	7	9	4	20
	助教	13	15	8	36
	研究員等	5	4	4	13
研究機関等		15	8	2	23
合計 (%:修了生に占める割合)		49 (16%)**	52 (59%)	22 (44%)	123 (33%)

* ナショナルセンター部長等教授相当 2名含む

** 内部進学者を含む卒業生 312名に占める割合

*** 内部進学者重複を除いた合計

＜科学的視点からの健康づくり③（宮田裕章委員説明資料）＞

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻

研究内容・教育コース並びにカリキュラム

1 公共健康医学専攻の概要

(1) 同専攻の目的

問題意識	<p>公衆衛生領域に関して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間集団の健康を対象にした分析方法を身につけ、 ・ 保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、 ・ 政策立案・マネジメント能力に優れた ・ パブリック・ヘルスマインドを持った <p>高度専門職業人の育成が急務である。</p>
目的	<p>国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成する。</p>

(2) 同専攻の特徴

- 平成19年開設（公衆衛生大学院）
- 現在、通常の2年コースに加え、実務経験者を対象とした1年コースを設置している。

2 主な研究内容

現在3つの大講座、計18分野（教室）が設置されている。

（1）疫学保健学大講座

分野	内容（研究・教育）
生物統計学	基礎・臨床・疫学といった医学研究において、どうデータをとるか（研究計画・実験計画）、どう解析するか（統計解析）の方法論を提供
社会予防疫学	人間社会で起こっているさまざまな現象（個人の生活習慣含む）と疾病との関連を疫学的手法を用いて解明し、それを疾病予防・疾病コントロールに用いるための具体的方策を探る
臨床疫学・経済学	疫学と経済学という背景の異なる2つの数量的分析手法と関連の社会科学的理論を裏付けとし、境界領域的な応用学問分野として、実証データに基づいた研究と実践・教育
医療コミュニケーション学	医療・公衆衛生におけるコミュニケーションと現状分析・評価及び今後のあり方などについて研究・教育
がん疫学	「がん」という疾病を軸に、その地理的分布や経年推移、要因の探索、予防法について、疫学手法を用いて体系的に捉える

（2）行動社会医学大講座

分野・コース	内容（研究・教育）
精神保健学	「心の健康」の本質の理解とその保持・増進のために、公衆衛生学に加えて、精神医学、心理学・行動科学、社会学などの方法論を組合せて研究
保健社会行動学	行動科学・心理学・社会学・経済学・疫学などの理論や方法論を組合せ、「社会」構造や関係が健康関連行動や健康生成に影響するメカニズムを解明。
健康教育・社会学	
健康増進科学	人々の健康維持・増進に資するプログラムの科学的根拠提示について研究。生活習慣と疾病との関連、疾病予防・健康管理活動に関する調査・研究を通じ、地域・職域における健康づくりの効果的方法・評価法の開発
医療倫理学	医療と公衆衛生に関わる政策決定や臨床現場での倫理的判断の基礎となる、倫理・哲学的理論の研究と教育
保健医療人材育成学	地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発による改善。また、医療専門職の評価をよりよい学習につなげる「学習評価学」も扱う

(3) 医療科学大講座

分野・コース	内容（研究・教育）
健康医療政策学	予防・医療・介護等の広義の健康・医療全般における様々な問題を、制度・政策論及び経済学的観点から実証分析し、必要に応じ政策提言につなげる
臨床情報工学	ICTの医療や保健・介護への応用可能な技術者・研究者の育成のため、臨床医学・健康科学だけでなく公衆衛生臨床活動への情報工学技術の応用に関する研究と教育
医療情報システム学	医療におけるさまざまな分野のICT化全般について、情報システムや電子カルテシステムの設計・開発・導入に関する諸問題の実践的教育・研究。またICT化推進に必要な政策・行政面での課題解決も検討
法医学・医事法学	法が適正執行されるために医学的に可能なことを考え実践するため、死因究明や被虐待時の生態診察等の業務の実施、また方法の開発に関する研究を実施
保健医療科学	※国立保健医療科学院との連携講座
医療安全管理学講座	医療における有害事象の未然防止活動、発生した有害事象への対応、患者からの苦情相談の対応に関する研究・教育
疾患生命工学センター 健康環境医工学部門	環境有害化学物質が胎児や新生児に与える影響とメカニズム解明と、その検出・診断技術の開発、知見を安全基準に反映させる方策の検討

3 公共健康医学専攻の教育コース・カリキュラム

(1) 課程の構成

○専門職学位課程として、2年コースと1年コースの設定がある。

○取得学位は、いずれも公衆衛生学修士（専門職）。

コース	対象	履修方法	年限
2年コース	通常の修士課程の出願資格を有する者（主に4年制大学卒業（見込）者）	必修科目に加え、課題研究の履修も必要	2年
1年コース	通常の修士課程の出願資格を有し、かつ以下（※）の実務経験を有するもの	必修科目のみ要履修、課題研究は選択	1年

※実務経験の内容：

出願資格	実務経験年数
4年制大学卒業者	3年以上
6年制大学卒業者（医・歯・獣医学）又は修士課程修了者	2年以上（医師等の臨床研修も実務とみなす）

・行政機関、健保組合等の保険者
・病院・診療所等の医療機関
・介護老人施設
・医薬品産業、医療関連産業
・その他医療関係団体（NPO・NGO）等における保健医療関係の実務経験

(2) カリキュラムの構成

2年、1年とも以下のうち6科目が必修となっている。

領域	科目名	備考
必修1	疫学研究と実践	選択必修
	医学研究のデザイン	
必修2	精神保健学 I	選択必修
	健康教育学	
必修3	医療倫理学 I	選択必修
	社会と健康 I	
	法医学・医事法学	
必修4	健康医療政策学	選択必修
	医療情報システム学	

○上記の他、選択科目の履修、また2年コースでは課題研究の履修と単位取得が求められる。